

# 今年度は安否確認訓練及び避難支援訓練を実施

6月24日の日高学区自主防災訓練において、社会福祉委員会では、安否確認訓練及び避難者支援訓練を行いました。



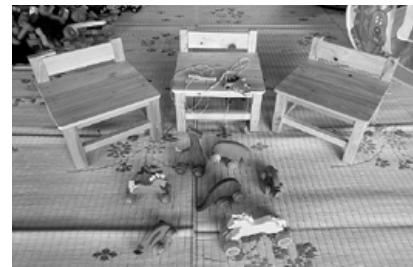
避難場所への移動訓練

平素の要支援者訪問活動を担う45人の支部福祉協力が、日立市避難行動要支援者名簿に登録している約200人の高齢者や障害のある方のお宅に訪問し、支援物資を配付しながら、災害時についての備えを聞き取り調査しました。家具などの転倒防止、食品類の備え、懐中電灯やラジオの準備など何かしらの対策をしていることが伺えました。

## 心温まるご寄付をいただきました

日高学区では就園前の親子を対象に日高交流センターで毎月第1・第3水曜日の午前10時から、おもちゃライブラリーを開催しています。このたび、木製品を手掛ける小木津町にお住いの方(匿名希望)から、おもちゃライブラリー宛に手作りの可愛らしい木のおもちゃと、木の椅子が届きました。

子どもたちが安全に遊べるように配慮されたおもちゃと、子を見守るお母さん用の椅子です。温かい、ご厚意に感謝申し上げます。また、日高学区の福祉活動に役立ててくださいと、日高写真友会、ここにクラブ有志の会、小木津町の佐々木孝博様からも善意のご寄付をいただきました。頂いたご厚意は、日高学区の見守り活動、介護予防体操、サロンなど的高齢者や障害のある方の支援、おもちゃライブラリーなどの



丸みのあるおもちゃと椅子

子育て支援事業等に有意義に活用させていただきます。

のか)も併せて聞き取りをしました。

また、災害発生を想定し要支援者避難支援訓練を実施しました。自主防災本部から指示を受けた福祉協力が、安否確認の訪問したところ、被災し避難所への移動が必要だが、歩行困難により自力での避難が難しいと想定したものです。今回は2名の要避難者を避難場所の体育館へ避難誘導し訓練を行いました。

実際に大規模災害が発生した場合、福祉協力員は自身や家族の安全を確保した上で安否確認活動をするのが大原則です。災害時における減災の8割は、自助と共助で対応できると言われていて、自助は災害に対する備え、共助は隣近所への声掛けや支え合いです。災害時は誰もが被災者、先ずは隣近所を声を掛け合い、お互いの安否をいち早く気遣うことが大切なようです。

## ホウ酸団子教室開催

6月6日、健康推進部主催の「ホウ酸団子作り」教室が約20名の参加で開催されました。「市販の退治薬よりよく効く」と、毎年この教室を楽しみにしている参加者もいました。

## 出前寄席

6月30日の午後、日高交流センター2階の会議室で日立市民科学文化財団主催の出前寄席が久しぶりに開催され、会場には浴衣姿の女性を含め50名近い観客が詰めかけました。会場正面には赤い毛氈と座布団の敷かれた高座と寄席文字で演者の名前が書かれた「めくり」が置かれ、寄席の雰囲気醸し出されていました。



観客を魅了する左橋の話芸

この日は、文化庁芸術祭で優秀賞を獲得したこともある実力家左橋の一人、初音屋左橋と若手家の金原亭駒平の二人が出演しました。真打の左橋は、嫁をもらった長屋の住人の一人をお化けで驚かせようとする仲間たちの騒動を描く「不動坊」と、大店の若旦那の病を高価なみかんて直そうとする

「千両みかん」の二話、また前座の駒平は、見栄っ張りの兄貴が読めない手紙を弟分に読んで聞かせようと四苦八苦する滑稽話の「手紙無筆の合わせて二話でした。さすがに実力家両名の落語に会場は終始観客の笑い声が満ち、日本の話芸に堪能したひと時となりました。

## 郷土ひたか (23)

### 小本津三大地蔵 (安良宿西のお地蔵さま)

小本津駅西口を出て山側に向ってほど近く、旧国道の向こう側にそのお地蔵さまが立っています。足元には誰が手付けたのか、綺麗な花が活けられており地元の方々に大切にされていることが伺えます。近所にお住いの渡辺義之さんにお話を伺うと、ご自身が子供だった60年ほど前、このお地蔵さまとその奥手にある愛宕神社をお祀りする安良宿



お地蔵様と地域のつながりを語る渡邊さん

では、子供たちを中心としたお盆の夜典祭や婦人たちの集まりの地蔵講などが行われていたそうです。今でも地区の氏子役員を中心に祭事を執り行っているものの、当時の若衆会もなくなり、かつての賑わいは失われてしまったとのことでした。

### 地蔵菩薩 「日立の石仏」より

小本津駅を下車して、50メートル歩くと旧国道に出る。その旧国道に面して地蔵菩薩像が立っている。その後の小高い岡には愛宕神社が祀られている。地蔵菩薩の所在地は、日立市小本津町341番地で、この地にほぼ東方向き、高い三重になった台石上に立つ。像高135センチ、蓮華座の高さ28センチ、その下に高さ25センチの円形の受座があり、この受座には三界万霊六道衆生の8文字が刻まれている。最下部の台座は、方形で、万物を育成する五元素のひとつである地を形どる台座である。近くには、正徳五乙未年(一七一五年)、文政11年(一八二八年)、嘉永2年(一八四九年)等に建立された碑が数基立っている。また道路のいりぐちには、西域供養塔も立っている。地蔵菩薩の石は寒水石のため相当度の風化損傷が見られる。小本津地区には、この種の地蔵尊が3軀あり、むかしから小本津三大地蔵の名称が残っている。